

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・学習規律を整えるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を全教科で取り組み、協働的な問題解決力を養う。	中間評価	・学習規律を整えたり、「主体的・対話的で深い学び」の取組と協働的な問題解決力を養ったりすることはおおむねできている。今後も継続して指導していく。	最終評価	・1年を通して、学習規律を整えるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実践し、協働的な問題解決力を養っていくことはおおむねできた。今後も継続して指導し、さらなる定着を目指していく。
		・各教科で適宜ICT機器を活用し、児童同士の学び合いのツールとして活用した授業展開の工夫を行う。また、個別最適化した学びを展開し、児童の「学びたい」という思いを叶えられる指導を行う。		・ICT機器を活用して授業の展開を工夫することはおおむねできている。今後も学び合いのツールとしてのさらなる活用を図っていく。また、個別最適化した学びを引き続き展開して指導していく。		・年間を通して、様々な教科や学習場面でICT機器を活用して授業を展開することがおおむねできた。今後も、児童の「学びたい」という思いを叶えられるよう、ICTを活用した指導のさらなる充実を図っていく。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)
1	国語	<p>学 文を視写することは概ね出来るが、感想等を文で表すことに課題のある児童が多い。</p> <p>学 どの児童も文字を習うことを好み、すすんで学習している。しかし、ひらがなの書き順や形を正しく覚えられない児童もいる。</p>	<p>・文を書くことに課題のある児童は、書く内容が定まらなかつたり、ひらがなが定着していないため文字の書き取り自体に時間が掛かたりする。</p> <p>・筆順が正しいものと異なることで、バランスの悪い文字になる。また、形を覚えても各画の配置を意識していないことで、バランスが悪くなってしまふ。</p>	<p>・内容が定まらない児童には、定型文を示すなど、文を書く形に慣れさせる。慣れてきたら、自分の言葉に置き換えて文を書かせるなど、課題をスモールステップにして取りまさせる。</p> <p>・定期的な書き取りの学習を繰り返す。また、文字を書く時には、マスの4分割を意識させることで、文字の形を整えさせる。</p>	<p>・定型文の例示に加え、文章のひな型を常に提示することで、苦手な児童も文章に取り組めるようになった。文を書くことに対する抵抗感も少しずつなくなってきた。今後も、児童の実態に合わせて、段階的に指導を行っていく。</p> <p>・マスの4分割を継続的に指導したことで、大小の形は整うようになり、大きさの違うマスでも形が大きく崩れない児童が増えた。筆順に関しては、口や日などの四角い形の漢字などは、筆順を気にしないで書く児童がいる。漢字の書き順を含めた指導は今後も細かく行っていく。</p>
	算数	<p>学 4・8・9・0の書き順に間違いがある児童が多い。</p> <p>学 計算(10までの足し引き)は概ね出来る。しかし、文章題では、足し算なのか引き算なのかを判断できない児童が多い。</p>	<p>・自分にとって書きやすい形で定着してしまっている児童が多い。</p> <p>・文章で書かれている内容をきちんと捉えられていない。また、学習した授業時間内は出来ても、内容から離れ、日にちが空いてしまうと出来なくなってしまう。</p>	<p>・日々の学習の中で、左記に示した数字の書き順を意識できるよう指導する。</p> <p>・文章で書かれている内容を絵で示したり、ブロックで示したりして、文章の内容を視覚的に捉えられるようにする。また、定型の問題を繰り返したり、前時の学習の復習を授業の初めに行ったりすることで、児童が文章問題に慣れるようにする。</p>	<p>・0や9など、なかなか書き順が定着しない数字もあったが、概ね正しく書ける児童が増えた。今後も正しい書き順を意識できるように指導をしていく。</p> <p>・文章のみでの理解を求めるのではなく、図や絵などの視覚的に読み取れる工夫を継続することで、文章問題に対する理解も深まった。立式するために必要な言葉を見つけてアンダーラインを引いたり、定型の言葉にチェックをしたりすることで、さらなる理解を促す指導を今後も継続していく。</p>
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月) → 最終評価 (2月)

2	<p>国語</p>	<p>学 文章を書くときに「は」「を」「へ」を正しく活用することが課題となる児童が見られる。また、「、」「。」が抜けてしまう児童が多い。</p> <p>学 漢字やカタカナの読み書きや書き順をきちんと覚えていない状況が見られる。</p> <p>学 授業では、積極的に発言する児童がいる一方、集中して話を聞くことが難しい児童も見受けられる。</p> <p>学 ワークテストでは、問題文を読み切らず、間違っただけの解答をする児童が見受けられる。</p> <p>学 タブレット端末を活用した学習では、自宅でも積極的に取り組む児童が多い。</p> <p>学 大きな声で音読することが苦手な児童が見られる。</p>	<p>・文章を書く際に「は」「を」「へ」および句読点の使い方を理解させる。</p> <p>・1年生の漢字やカタカナをきちんと書いたり、書き順を正しく書いたりできるようにする必要がある。</p> <p>・下を向かず、はっきりと大きな声で音読をしていく態度を身に付けさせる必要がある。</p>	<p>・「は」「を」「へ」を正しく活用することを定着させていくために、見本となる文章を繰り返し視写していく学習活動を取り入れる。また、「あのね日記」などで、正しい活用方法を指導していく。</p> <p>・授業の中で定期的に小テストを行い、復習に力を入れる。家庭学習で保護者にも協力していただき、漢字やカタカナの読み書きの習得を確実にする。また、ICT機器やデジタルドリルを活用し、書き順や活用法などを示し理解を促す。</p> <p>・家庭と協力し、音読指導を行う。また、学級発表などを通して音読の成果を確かめられる場を用意し、上達するための意識をつける。</p>	<p>・日記や作文指導を通して、文章の書き方を理解できた児童がいる。しかし、文章を組み立てることが難しく「は」「を」「へ」が抜けてしまう児童が多いため、今後も継続して日記や作文などで指導が必要である。また、既習漢字やカタカナを活用できるよう指導していく。</p> <p>・学習への取り組み方が浸透してきており、概ね改善できた。しかし、指示を受けて活動することが難しい場面もあるため、個別最適化した対応を継続して行う。</p> <p>・テストでの、答え間違いなどがまだあり、文章を読み切つて設問に答えるよう継続して声掛けが必要である。</p> <p>・タブレット端末での宿題などで、苦手な箇所を反復して学習することができるようになった。また、意欲的に取り組む児童が増えた。</p> <p>・音読劇などの、声を出して読む活動を通してまわりに聞いてもらうための声の大きさを知ることができている。</p>	<p>・「あのね日記」や作文の指導、冬休みの宿題などで繰り返し指導することによって、「は」「を」「へ」や小文字の「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」を適切に使える児童が増えてきた。しかし、句読点が抜けてしまったり、外国籍の児童を中心に小文字や濁音の記載が正しく書けない児童もいたりするので、3年生になっても、日記や作文などで継続的に指導していく。</p> <p>・意識して丁寧な字を書く児童が増えてきているが、集中力が切れたり、宿題のノートで雑な字になってしまったりすることがある。書き直しをさせたり、個別で指導したりするなど、中学年でも引き続き指導をいっていく。</p> <p>・デジタルドリルでの漢字学習では、同じ課題を繰り返し出すことによって、苦手な漢字の習得がしやすくなった。しかし、課題への取り組みに個人差が出やすいため、家庭への声掛けを含めて、児童が課題に取り組めるようにしていく。</p> <p>・授業の中で音読を友達に聞かせる場面では、聞き手を意識した声の大きさや間の取り方をできるようになってきた。しかし、児童の中には抑揚をつけられずに読んでしまったり、決め読みをして間違っただけのまま読んでしまったりする児童もいるため、今後も継続的に正しい読み方を指導していく。</p>
	<p>算数</p>	<p>学 たし算の繰り上がりの筆算に時間がかかる児童が多い。</p> <p>学 板書を写すことが難しく、ノートの書き方の理解ができていない児童がいる。</p>	<p>・筆算の方法や書き方を理解、浸透させる必要がある。</p> <p>・ノートの書き方を共通理解させる必要がある。</p>	<p>・授業の中で、適宜振り返りを行い、筆算の習熟に努める。</p> <p>・ICT機器を活用し、児童と同じノートで板書指導するなど、理解しやすい指導を心掛ける。</p>	<p>・練習問題に取り組む際、聞かれていることに下線を引いたり、キーワードに印をつけたりするように指導したこと、何を求めればよいかを意識して答えを導けるようになってきた。今後も継続していく。</p> <p>・板書を写すことが苦手な児童には、教科書に直接書き込ませたり、簡素な板書にしたりすることで、学習に取り組む意欲を高めるきっかけになった。今後も継続して指導していく。</p>	<p>・学習プリントを使い、適宜復習させることで学力の定着を図ってきた。量感やめもりを読む力も身に付いてきた。また、テストの平均点も1割程度の向上が見られた。</p> <p>・正しい筆算や式の書き方は定着してきたが、図や表をノートに分かりやすく書くことが難しい実態がある。引き続きICTなどを利用してノート指導を継続していく。また、共同学習支援ツールなどで問題を発信したり、ノートの書き方の例示をしたりすることで、書き取りが苦手な児童にも意欲的に学習に取り組めるようアプローチしており、そちらも継続的に指導していく。</p>
3	<p>国語</p>	<p>調 新宿区学力定着度調査では、「話す・聞く」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「言語に関する知識・理解・技能」において、いずれも区の平均を下回る結果となった。中でも「書くこと」においては、大きく下回る結果となった。</p> <p>学 漢字の定着に個人差が見られる。</p>	<p>・作文、読書感想文等へ書き慣れさせ、正しい書き方に身に付くように指導する必要がある。</p> <p>・新出漢字について繰り返し練習や見直しを行う。</p>	<p>・作文の書き方指導をし、構成力を身に付けさせるとともに、書く取り組みを多く取り入れる。また、読書のさらなる推進をしながら、語彙を増やしていく。</p> <p>・フラッシュカードやタブレット端末、デジタルドリルを用いて、繰り返し習熟させる。</p>	<p>・読書や辞書引きで、語彙を増やす活動を行ったり、繰り返し文章の構成を考えて作文に取り組んだりすることで、書く力が高まってきた。今後も継続して指導していく。</p> <p>・間違いの多い漢字をクイズ形式にして示すことにより、間違いやすい漢字も定着するようになってきた。今後も継続して指導していく。</p>	<p>・毎週日記を書いたことで、記述に慣れさせることができた。また、初めは1マス下げる、会話文は改行するなど作文の書き方を正しく理解させることができた。</p> <p>・行事ごとに絵日記を書くことで、文章を書く力を付けることができた。</p> <p>・読書の習慣を身に付けることで、語彙が増え、文章を書く量も増えた。</p>

	算数	<p>調新宿区学力定着度調査では、「数と計算」「測定」のどちらも、区の平均をわずかに下回っている。</p> <p>学 文章題を正しく読み取ることが難しい児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物を用いて、既習事項も含めて学習内容を十分に理解できるよう指導する必要がある。 ・計算問題等への習熟をさらに図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題に繰り返し取り組ませて習熟を図る。「測定」においては、既習事項の振り返りを行いながら具体物や半具体物を用いたり、ICT機器を活用した学習を行ったりして、興味関心を高めるとともに、理解の定着を図る。 ・家庭学習やデジタルドリルを活用した練習問題を適宜取り組ませ、家庭と連携しながらさらなる学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に繰り返し取り組ませることで、計算力が身に付いてきている。今後も継続していく。「測定」については、今後も具体物を用いた体験的な活動を多く行うことで、確実に理解できるようにしていく。 ・文章題を正しく読み取ることができるよう、図や絵に表すようにしている。今後も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で前時の振り返りを行ったり、習熟度別指導の特性を活かして、各コースの児童の実態に合わせた問題に取り組みせたりしたことで、学習内容を定着させることができた。 ・文章を図や絵に表すことを指導し続けたことで、内容を正しく読み取ることができるようになった。今後もデジタルドリルを活用して指導を継続していく。
4	国語	<p>調新宿区学力定着度調査では、各領域とも標準スコアを上回っている。語彙力を含め、「書くこと」の領域に個人差が見られる。</p> <p>学 漢字の定着に個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書くことや説明文を正しく読み取ることができるよう指導する必要がある。 ・既習漢字の習得をさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際には、段落相互の關係に着目させたり、短文作りを適宜授業に取り入れれたりして指導する。 ・ICT機器やデジタルドリルを活用し、朝学習の時間や授業で漢字について指導していく。また、家庭学習でも漢字の学習を取り入れたり、音読を取り入れたりして、新出漢字の読み書きの定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を書く取組により、文章を書くことに慣れてきた様子が見られる。引き続き取り組ませていく。 ・文章の読み取りの際、課題に合わせてサイドラインを引くことで、根拠をもって自分の考えを表すことができるようになってきている。今後も、「書くこと」につながる具体的な手立てを授業に取り入れて指導していく。 ・辞書引き学習を始め、言葉への関心が高まっている。学んだことを生かしたり、短い時間で漢字を反復練習したりする活動を取り入れ、漢字や言葉のさらなる定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を書くことにより、文章を書くことに慣れ、表現が豊かになったり、工夫したりする児童が増えた。今後はテーマを設定するなど、意図的に様々な経験を積むことができるようにするとより力が向上すると考えられる。 ・漢字ドリルやデジタルドリルで繰り返しの学習に取り組むことで、定着に繋げることができた。しかし、課題に対する意欲や取組に差があるため、楽しさや達成感を味わいながら進めていくことができる工夫が今後必要である。 ・辞書引き学習の延長で、言葉の意味に興味をもったり、自主的に言葉を調べたりする児童が増えた。
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査では、各領域で課題が見られ、「数と計算」や「図形」の領域が標準スコアを下回る結果となった。</p> <p>学 既習内容が習得できていない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような計算をすればよいのか、図形の定義や性質の理解等、順序よく筋道を立てて考えていくことができるように指導する必要がある。 ・既習の学習内容を習得させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導の特性を活かし、教材や発問を工夫して、算数の学習が日常生活に深く関わっていることを実感させて興味関心を高める。また、適宜ICT機器や具体物を活用しながら指導し、学習内容の定着を図る。 ・ICT機器を活用して、教師の手元をプロジェクターで投影しながら指導し、道具の正しい使い方を指導したり、デジタルドリルを活用したりして復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導を活かし、学習内容の習熟のための時間を多く設定したことにより、技能に関する定着が見られる。算数アンケートでは、「自分なりのやり方で解く」や「自分の考えを発表する」「友達のを聞く」といった項目が低い結果であった。児童の考えを深める発問や表現活動、交流場面の工夫を行っていく。 ・道具の正しい使い方を指導したが、活用する中で、正しく扱えていない場面があった。デジタルドリルを活用して、適宜復習に取り組みさせることで、少しずつ習得できてきた。引き続き、ICT機器を適宜活用して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用しながら、計算の仕方を図や表、言葉と照らし合わせて考えることで、計算の意味や手順をより具体的に順序立てて考える力が高まった。 ・友達の説明や解答例を共有し、それをいかしながら自分の考えを表せるようになった児童が増加した。 ・道具の使い方を含め、単元が終了しても定期的に練習問題に触れる機会を作ることで、学習内容を理解させることができた。
5	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の結果、「書くこと」領域が標準スコアより下回っている。</p> <p>学 自分の考えをまとめたり、書いて表現したりする課題の仕上がりには大きな差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」に対して、何をどのように書いたらよいか理解できるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週末課題の日記や短文作りを日常的に取り入れれたり、授業で言葉集めをして語彙力を増やようにしたりし、「書くこと」に関する力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業の中で、適宜文章を書いたり、学習の見通しをもたせたりすることで、書く活動に意欲的に取り組む児童が増えた。今後も、文章を書く際に、相手意識と目的意識をしっかりともたせて書くよう継続して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から書く活動に取り組んだことで、文章を書くことに抵抗がある児童が少なくなった。今後も相手意識と目的意識をもたせながら取り組ませることを大切にして指導を継続していく。
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査では、各領域とも標準スコアを上回っているが、「図形」についての領域が、全体と比較すると少し下回る結果となった。</p> <p>学 基礎的な計算や図形の定着に大きな差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の定義や性質への理解を十分にさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や発問を工夫して、算数の学習が日常生活に深く関わっていることを実感させて興味関心を高める。また、適宜ICT機器や具体物を活用しながら指導し、学習内容の定着を図る。また、デジタルドリルを活用した練習問題を適宜取り組ませ、家庭と連携しながらさらなる学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の指導では、操作的活動を行ったり、ICT機器を活用したりして図形の性質や作図方法を適宜指導したことで、理解が深まった。今後も、日頃の授業の中で、前単元までの復習を取り入れながら指導していき、定着を図る。 ・家庭学習で、計算の学習を取り入れて指導してきたことで、ケアレスミスや誤答が少なくなった。今後も、家庭学習や日頃の授業の中で児童の実態を把握しながら、適宜計算の学習を取り入れて理解が深まるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・操作的活動やICT機器を活用した作図指導に適宜取り組んだことが、理解を深めることにつながった。さらなる学習内容の定着を図るため、継続して指導する。 ・授業と家庭学習で計算の学習に取り組んだことにより、習熟を図ることは概ねできた。今後も、児童の実態をしっかりと把握しながら指導を重ね、理解がさらに深まるよう指導する。

6	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果、平均正答率は全国・新宿区と比較しても大きな差はないが、「書くこと」分野の正答率は低い傾向が見られた。</p> <p>学 学習や宿題には概ね取り組むことができるが、文章を書くような課題の仕上がりには差が大きい。</p>	<p>・「書くこと」について、テーマに沿った文章を書きあげることができるようにする必要がある。</p>	<p>・テーマや課題を決めた文作りを朝学習等、日常的に取り入れられたり、授業で自分の思いや考えを文章で表現する機会を作るようにしたりし、「書くこと」に関する力の定着を図る。</p>	<p>・全国学力・学習状況調査の結果、平均正答率は全国・新宿区と比較すると上回っていたが、上位層と下位層に分かれる二極化が顕著だった。今後は基礎的な学力の定着が一層図れるよう、下位層に対しては既習事項の復習に重点をおいて指導していく。上位層に対しては、多様な表現ができる語彙を適宜扱わせ、自分の思いや考えを文章で表現する機会を作るようにして「書くこと」の力の定着を図る。</p> <p>・辞書引き学習を進めたことで、語彙力の向上や語彙に対する関心が高まっている。今後は、獲得した語彙を積極的に使いながら自分の考えを整理し、順序立てて文章を書けるよう指導し、読み手への意識をさらに高めていく。</p>	<p>・説明文や意見文を書く活動では、文章の構成を簡易的に作らせ、文章にさせてきた。簡易構成を活用して、どのような構成にすると自分の考えをより効果的に読み手に伝えることができるのかを考えさせたことで、自分の考えを文章に表現することができる児童が増えた。しかし、多様な表現を用いる児童は多くないので、進学に際しては新たな手立てが必要になる。</p> <p>・語彙力の向上や語彙に対する意識が向上したことで、文章等に獲得した語彙を用いる児童は増えてきた。しかし、語彙を広げるうえでは、辞書引きだけでは不十分な部分も感じている。進学に際しては、新たな語彙と出会った際に、自発的にその語彙の意味や用途を獲得できるような手立てを講じていく必要がある。</p>
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査の平均正答率は全国スコアを上回っているが、新宿区の平均正答率と比較すると下回る結果となった。</p> <p>学 学習に取り組む意欲が低く、家庭学習の取り組み方に課題のある児童もいる。</p>	<p>・児童の二極化が見られ、底上げが必要である。</p>	<p>・習熟度別指導を中心としたスモールステップの指導計画を実施したり、毎時間、前時の復習を丁寧に授業の中に入れ込んだりし、学力の底上げを図る。また、デジタルドリルを活用した練習問題を適宜取り組ませ、家庭と連携しながらさらなる学習の定着を図る。</p>	<p>・全国学力・学習状況調査の結果、平均正答率は全国・新宿区と比較すると上回っていたが、上位層と下位層に分かれる二極化が顕著だった。今後は下位層に対しては基礎的な学力の定着が一層図れるよう、既習事項の復習に重点をおいて指導していく。上位層に対しては、応用・発展問題を適宜扱い、思考力・判断力・表現力をさらに高められるよう指導していく。</p> <p>・習熟度別に分かれ、今後もICT機器やデジタルドリルの活用をさらに充実させ、一人一人に合った課題や資料を提示していく。</p>	<p>・習熟度別に分かれて児童の実態に応じて指導したり、ICT機器やデジタルドリル、発展教材を活用したりしたことで、基礎的な計算方法の理解や技術の定着を一定数図ることができた。しかし、下位層に関しては、既習の復習を繰り返してもなかなか定着を図ることが出来ない実態があった。進学するまでに、主に四則計算を中心に復習を繰り返し行える環境を整えていく。</p>
音楽	<p>学 音楽の表現活動を素直に楽しめる児童が多数いる。高学年は二部合唱で音を重ねて歌うことに興味をもっている。</p>	<p>・どのように表現したいか、どうしてそう思うのか、音楽のどこから感じ取ったのか、言語化していけるよう指導が必要である。</p>	<p>・全員が答えられる知識を少しずつ身に付けさせ、「わかる」という時間をとり自信をもたせる。短いフレーズで考える場をつくり、様々な表現を試す場を設けていく。</p>	<p>・授業の導入でリズム遊びや手遊び等、リズム感や読譜力を身に付けられる時間を設ける。感染症対策をとりながらリコーダー等器楽の技術も少しずつ身に付けさせていく。</p>	<p>・様々な表現活動を通して、音楽の美しさや楽しさを感じ取る様子が見られる。表現するための手立てを言語化するほか、また継続した指導が必要である。</p>	
図工	<p>学 図工の活動に意欲的に取り組む児童が多い。</p>	<p>・絵の具の扱い方やのこぎり、彫刻刀等に関する知識や技能を身に付けさせる必要がある。</p>	<p>・学年の実態に応じて系統的に知識や技能を身に付けることができるよう学習を計画する。ワークシートやタブレット端末を有効活用して児童の理解を促す。</p>	<p>・各学年の実態に応じて、系統的に知識や技能を身に付けさせている。児童の発想を引き出すような課題を提示していく。</p>	<p>・各学年の実態に応じて、様々な知識や技能を系統的に身に付けさせることができた。児童の発想を引き出すため課題の提示の仕方を工夫していく。</p>	
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。